

山形の母なる川

最上川

vol.34

平成25年8月20日



倫理経営企業の素顔

第11回 山形市倫理法人会 ビューティーサロン辰巳有限会社

荒 恒子社長(右)、
山川博江店長(左)

目次

鈴木隆一会長 挨拶…………… 2	第21回ブナ文化フォーラム…………… 8	倫理経営講演会…………… 15
北村山倫理法人会開設・設立記念式典… 4	女性倫理講演会…………… 10	単会トピックス…………… 21
法人局及び県の方針説明会開催………… 6	第2回山伏修行体験塾…………… 11	倫理を学んで…………… 23
丸山俊秋理事長を迎えて…………… 7	倫理経営企業の素顔(第11回) …… 12	編集後記…………… 24



社団法人 倫理研究所
山形県倫理法人会

喜びに包まれて

山形県倫理法人会 会長 鈴木隆一



喜びの足跡を振り返る

県会長を務めたこの3年、活動すればするほど大きな喜びがありました。いろいろな喜びがありました。その喜びはきつと次の活動の推進力

となります。そこでみなさんに感謝しつつ3年間の喜びを振り返りたいと思います。

1. 新しい会を創る喜び

平成23年9月「山形市中央」設立、平成24年5月「庄内中央」設立、平成25年6月「北村山」開設、8月設立。この3年間に3つの単会が誕生しました。設立運動は全く違う経過をたどり、それぞれに試練と歓喜のドラマがありました。この体験から得られる喜びはとても深く大きく、まさに倫理法人会活動の醍醐味です。改めてみなさんのご努力に感謝します。

2. 会が成長する喜び

新しい会がスタートし、新会長のもとみなさんが心を一つにして会を運営する姿を、いつもうれしく眺めていました。会う度にみなさんが成長していくのがとてもうれしく思われました。

3. 人材が育つ喜び

新しい役に就いて新しい任務を遂行し、活動しながら楽しんでいる役員の様子を見るのはうれしいものです。人材を育てることは希望を創り出すこと、会の未来を明るくすることです。

4. 人の喜び、わが喜びに

「会を創ってくれてありがとう」「入会してよかった、ありがとう」「ご支援ありがとうございます」と感謝の言葉をいただく度に感動しました。会長をしてよかった！と心から思いました。

5. 「わかりました、入会します」の言葉

普及活動をして入会をお勧めした直後、私のお話を聞いてくれた人がそのように言うことがあります。すると喜びが爆発します。「万

歳！よかった！よし、これからは責任を持ってこの人と関わっていきましょう」と決意を新たにする瞬間です。この喜びをできるだけ多くの会員に体験してほしい。これは特に重要な教育機会です。

6. 他県のご期待に応えたい

堅実な普及活動や会員数の安定度などの点で、この3年間山形県は他県から注目されてきました。ずっと前からやっている当たり前のことを褒められて不思議に思いました。善き伝統をつくってくださいと先輩諸兄に感謝しています。そして、山形県に対する他県の期待に応えることが私の喜びとなりました。全国の倫理法人会が拡充（活性充実）を目指す時に、山形県の存在が励みになればよいと思います。

7. 他県と交流する喜び

山形県倫理法人会や単会はどんな活動をしているのか？と県外からわざわざ視察に来られる人が増えました。他県の方々と交流し学び合う喜びを体験しました。

8. 単会を訪問し交流する喜び

予め訪問をお知らせして単会の幹部研修や臨時役員会に出席させていただき、その後単会の方々や食事しながらさらに話し合いました。こうして県と各単会が交流する中で、みなさんと心が通い合う喜びを感じました。

9. 理念と方針、目標と計画を創る喜び

目標達成は最高にうれしいものですが、目標を決めることも喜びです。そして目標を達成するための計画や理念を創り出すのも喜びです。創り出す責任の重みと喜びを味わいました。

10. 会長あいさつへの思い

あいさつは発した瞬間に消えてなくなりません。みなさんの耳には届いても心まで届くかわかりません。県役員会の5分の持ち時間でみなさんの心に響く会長あいさつをしたい、そこで準備に時間をかけ、話の内容を1枚の紙に書き出し、毎月役員会資料として添付しました。それが「月次テーマと活動の提案」です。テーマと基本方針と運営の3つを箇条書きしたものです。今読み返すと私の思いや考え方の変遷がわかり、貴重な記録です。

11. 生き生きした広報誌

みなさんの笑顔やプラスの言葉、倫理経営の実践などが載った県広報誌「最上川」を読むのが楽しみでした。一人一人の成長の様子

がわかり、いつも喜んで読んでいました。

12. ラジオCMの手応え

「毎朝聞いています」「通勤の時、流れてますね」と非会員の方々からよく声を掛けられ、その度にうれし恥ずかしの気分でした。ラジオCMをスタートして2年半経ちますが、倫理法人会の知名度が着実にアップしたと感じます。

13. 喜びがギュッと詰まった20周年記念誌

表紙のブナの写真がとても印象的です。設立20周年記念誌「やまがたの倫理」は山形県倫理法人会の過去と現在を紹介しつつ未来のあるべき姿も意欲的に企画編集し、多くの方々が見る未来を語っています。新入会員研修から役員研修まで幅広く活用できます。

14. 自然から学ぶ喜び

私は富士高原研修所の「経営者倫理セミナー」と山形県のオリジナル行事「ブナ文化フォーラム」が好きで何度も参加しました。大自然の息吹きに触れて得られる深い喜びは、室内の座学からは得られないものです。また、県青年委員会のご努力で昨年「山伏修行体験塾」が始まり2年目の今年さらに大勢の方々に参加しました。この新オリジナル行事も含め、生きる喜びを深く実感できる野外行事をこれからも続けてほしいと思います。

15. 家族と社員に支えられて

この3年、倫理法人会のみなさんと共に、一番身近な家族と社員の方々からも励まされ支えられてきました。会長職を3年間後顧の憂いなく元気健康で務めることができたのは、なんと言っても家族と会社のみなさんのおかげです。

次年度 五十嵐慶三会長に期待

会長には喜びがいっぱいあります。心配しないで、その時々になんか喜びを糧に前進してください。

むすびに

みなさんのお陰でここまで来ることができました。お一人お一人に心から感謝申し上げます。次の五十嵐慶三県会長をどうかよろしく願います。

みなさんからいただいたご恩に報いるため、そしてもっと倫理を学び人のお役にたつ人間になるため、次年度私は法人スパーバイザーを務めます。新米ですが、どうぞよろしく願います。

みなさんの幸せを祈りつつ、むすびといたします。ありがとうございました。

北村山準倫理法人会 開設記念式典



北村山準倫理法人会

会長 早坂 幸起

去る6月28日（金）、北村山準倫理法人会の開設記念式典が村山市のクアハウス基点にて挙行され、多くの関係者に見守られながら県内14番目の単会が誕生いたしました。開設時点での会員数は106社、1か月前の申請時点で力及ばず100社に満たなかったということもあり残念ながらこの度は準倫理法人会開設記念式典となりました。しかしながら我々会員の思いはもとより尽力していただいた県役員の皆さんの思いも

「北村山準倫理法人会」でありました。

鈴木県会長、柴田実行委員長をはじめとした県役員の皆さんや近隣単会の皆さんから掘っていただいたこの「北村山準倫理法人会」という井戸から澄み切った水がこんこんと湧き出てまいりました。これからこの湧き出た水がこの北村山地域の企業や職場、そして家庭に多くの潤いと恵みを与えてくれるものと思います。これからは会員一同この井戸の水のように澄んだ心で、永遠に涸れることのない企業を目指し、後世まで誇れる井戸にしていきたいと思えます。

最後になりますが「北村山準倫理法人会」は県内で最も若い単会でもあります。持ち前の明るさで県内で一番明朗な単会を目指していきますので今後とも変わらぬ応援をお願いします。

この「最上川」が発刊される頃には真新しい行動旗のもとで……。



行動旗の重さを知った——北村山倫理法人会設立式典

8月2日(金)北村山倫理法人会設立式典が開催されました。早坂会長は謝辞の中で「真っ青な行動旗をようやく手にすることができて、この旗の重さを改めて噛みしめております。倫理法人会に入会して5年。天童市倫理法人会MSで、真正面に掲げられた行動旗を普段何気なく見上げておりましたが、あの旗には、設立までのたくさんの方々の思い、ご苦労がこんなに詰まっていたのかということを感じ知らされました。明日から、第1回MSが正式にスタートいたします。この北村山の行動旗を会場の正面に掲げ、仲間と一緒に日本一明朗な倫理法人会を目指し地域の宝とされる会にして参ります」と宣言いたしました。設立本当におめでとうございます。(広報委員長 土屋和浩)

同	同	同	同	同	平成25年1月9日	平成24年12月19日
8月2日	6月28日	6月14日	5月28日	4月27日	設立実行委員会を開催、3市首長訪問。	発起人会を開催。
設立式典 106社。	準倫理法人会として開設式典。	100社に到達。	倫理研究所へ開設を申請。	第1回プレMS開催。講話者熊谷眞一県相談役。		

法人局及び県の方針説明会開催

8月2日に平成26年度活動方針発表が行われました。最初に倫理研究所の活動方針を教育事業部川又寿久部長よりご説明いただきました。

倫理研究所の方針について、日本が創造的に再生する時を迎えた。大きく変動する時代の直中であって、わが国は国家・家庭・心の劣化に歯止めをかけ、複雑多様化する国際情勢を見据えながら、雄々しく甦らなければならぬとし、「地球倫理の推進」と「日本創生」の2大理念継続の下、あらゆる営みの基盤をなす純粹倫理の発揚に努め、その基本方針を「内外拡充、上下一心」と定めて、自他共尊の国民教育を振興すべく、諸事業を展開していくと発表いたしました。

また、法人局の方針では、拡充3年計画の2年目にあたる今年度は、単会活動の活性充実を最優先に各種活動を展開していく。普及体制は「堅実な普及活動による確実な成果」を強調。具体的な普及指標を示し、高い使命感と強い絆を持つて魅力ある活動を展開し、組織拡充を目指すこととしました。

これを受けて、五十嵐慶三次期会長により平成26年度の山形県倫理法人会活動方針発表が行われました。

活動の目的

我々「山形県倫理法人会会員」は、わが郷土「山形県」の良さを深く認識し、地域のリーダーとしての自覚を深め、「明朗」「愛和」「喜働」の実践により、さ

らなる繁栄を目指します。

- ① 純粹倫理を正しく理解し、実践目標を掲げ、行動します。
- ② 大自然との関わり合いを通して、畏敬、信頼の心を育みます。
- ③ 肉體健康、家庭健康、事業健康の根源に繋がり、全てを繁栄させます。

活動指針

己が主体となり、明るいい心で接し、全てを明るく、和やかで、ゆるぎない家庭を築き、夫婦合一、事業繁栄、全てを成就させ、朗らかな世の中を創造します。

- ① 単会会長を中心に、終始一貫、やり抜きます。
- ② 中心軸を大切に、ぶれずに、大胆に行動し続けます。
- ③ その場に生き、己を活かし、お役に徹します。

活動スローガン

「やるも、やらぬも、全ては、己が主役！」

3つの活動重点目標

- ① 普及活動は「地域性」や「これまでやってきたこと」をしっかりと考慮してから「今必ずやっておかなければいけないこと」を最優先として取り組む。
- ② 拡充活動は単会ごとに「具体的な策」を立案。ブロックごとの協力度体制を整えて着実な成果を上げる。
- ③ 各種活動を通してわが郷土の良さ、地域との関わり合いから学んだことを活かしてさらなる拡充を目指す。

第9代五十嵐慶三山形県倫理法人会会長の下、単会の立場に立ち、真剣に実情をお聞きし、充実した活動になるよう、共に汗をかき、皆が力を合わせ、「内外拡充、上下一心」で頑張ってくださいませよう。

1750社を誓う気炎会を開催

8月2日に必達を誓った1750社。今年度は会の歴史上初めて目標未達となりました。しっかりとそれを反省し受け入れて、研究所の登録期限である8月19日午後4時までに何としても頑張ろうと誓いあった県役員会。

鈴木会長は「プレッシャーや苦しみを感じながらの普及になってしまったことを反省しています。しかし目標社数に遠く及ばずこのまま活動終了するわけにはいきません。約束の期日に間に合いませんでしたが、遅れてでも達成したい。現在入会社数は日を追って増加してきていますので、活動を中止することなくこの勢いを続けていくべきだと思えます。お祭りやお盆休みなどで残りの活動期間が少なく、多忙な中で活動するからこそ勇気と知恵と迫力が生まれます。最後の追い込みをするかしないかで大きな差が生まれるのは皆さまご承知の通りです。結果を気にせず、心配せず、明るく仲良く喜んで働き、信念を持って終始一貫やり抜く。最後まで諦めず全部の単会が行動することをお願いいたします。自分の任期末の8月31日まで、私は拡大を続けて次年度へ繋ぎます」と力強く宣言。大きな拍手を持って承認されました。

活動方針説明会の後、北村山倫理法人会設立記念祝賀会と併せて、1750社を誓う気炎会を開催。とても楽しい宴となりました。

丸山敏秋理事長を迎えて



天童市倫理法人会

会員 齊加 義三



去る6月4日、5日と

天童市倫理法人会に、丸山敏秋理事長をお迎えして役員研修、特別モニタリングセミナーが行われました。天童に丸山理事長をお迎えするのは平成15年以来という事ですので、丁度10年振りとの事です。倫理入会歴がまだ1年弱の私は初めて理事長のお話を直接お伺いできるのを楽しみにしていたと同時に、とても緊張しておりました。ですが実際お会いさして頂く



と、その緊張もスツとほぐれてしまう温かいお人柄に安心と強い感銘を受けました。

さて、今回は特に役員研修を中心とした感想を綴らせて頂ければと思います。



「2013年、日本は大変動のクライマックスを迎える」。様々な事象が現実に取り、時代が変動期に入っている今、経営者にとって大切な能力、それは見極める先見力である。いかに倫理経営に基づいて実践できるか、そこがポイントかと感じました。



また近年『国力の低下』が危惧されており、改めて『日本創生』が喫緊の課題である事を認識させて頂きました。『純粹倫理』は心の生活法則Ⅱ心の有り方。このような時代だからこそ、先ず自分の内に向かって問い、自己革新を実践して行く事が大切だと思えました。この『実践者』が増える事が『日本創生』に繋がるのお話を頂きました。最後にこの言葉を頂いて、今回の研修は結びとなりました。「純粹倫理の実践に終わりはない。実践すればする程、幸福感は溢れ、喜びは深くなる。そこに限度と言うものは無いのだ。」

第21回 ブナ文化フォーラム

6月8日(土)～9日(日)に
第21回ブナ文化フォーラムが小国
町で開催されました。



最初に内村鑑三氏ゆかりの基督教独立学園
高等学校を訪問。本間利雄県名誉会長の設計
されたできたばかりの講堂に集まり、学校の
創設の経緯や現在を学びました。「読むべき
ものは聖書・学ぶべきものは天然・なすべき
ことは労働」という建学の精神の一端に触れ
ることができました。また、パイプオルガンの
荘厳な響きを堪能できました。



飯豊山荘で野趣あふれる昼食を
堪能し、温身平の原生林を獣道を
縫うように森林セラピー散策。多
くのブナに出会うことができました。
その後、旧小玉川小・中学校
にて小国町長を交えてのブナ文化
フォーラムを開催。小国町の再生
に向けてというテーマで現状報告
と意見交換がなされました。



懇親交流会は小国町の方々とともに
 楽しく懇談でき、地酒桜川と山の珍味
 を堪能させていただきました。
 翌朝は、特別MSが開催され本間利
 雄名誉会長のご講話をお聴きし美味し
 い朝食をいただいで解散となりました。
 岩魚3匹に山女魚1匹。そしてた
 くさんの山菜。桜川！大変ごちそうさ
 までした。

平成25年度女性倫理講演会

7月20日(土)平成25年度女性倫理講演会を山形国際ホテルで開催いたしました。講師は、福岡の南蔵院住職 林 覚乗氏「心ゆたかに生きる」というテーマでご講演頂きました。

200名を超える沢山の方にご来場頂きましたこと本当に感謝申し上げます。



前日には、県内に大雨による警戒注意報が出るなど、大変なさ中にお越し頂いた方もいらっしやいました。

この度、無事講演会が開催できましたことは本当に有り難く感じています。講演会にあたり、ご挨拶を頂きました鈴木県会長をはじめご協力頂きました女性委員会の皆様、誠にありがとうございました。

今回の講演会では、どなたに講師をお願いしようかと悩んでおりましたが、男女問わず参加して頂ける企画、そしてどんな方がお聞きになっても心が豊かになり、また倫理の学びとも繋がるお話をして頂ける、林住職にお願いすることになりました。

来場頂きました皆さんからも、「感動した」「何度聞いてもいい」な

ど喜びのお声を頂く事ができました。また、住職のお話の中に、「心が豊かだから感謝をするのではなく、感謝をするから心がゆたかになる」と言う言葉があり印象的でした。当たり前前にもあるものにどれだけ感謝ができているか、そして感謝する心が人生をゆたかなものにしてくれるのかな、と感じました。葉の中にも「うまく行かぬから、望みを失うのではない。望みをなくするから、崩れて行くのである」とあります。まずは、人の心が先であると言う事ではないかと思えます。住職のお話は、次から次へと展開されるエピソードの中に笑いと感動があり感動して泣かされたかと思えばすぐにユーモアで笑わせる、というように、本当に心がゆたかになる講演でした。

皆様のお陰で平成25年度の女性委員会が一番大きなイベントも無事終了することができました。重ねて御礼申し上げます。最後に、講演会での鈴木会長のご挨拶の中に、女性委員会が一番元気の委員会ですとご紹介頂き大変嬉しく思いました。これからも女性委員会は元気で明るく朗らかに活動して参ります。



女性委員会

委員長 土屋 玲子



平成25年度 第2回 山伏修行体験塾



山形県倫理法人会
青年委員長 池田 知之

平成25年度山伏修行体験塾が7月8～9日、7月10～11日に鶴岡市羽黒町いでは文化会館を拠点として開催されました。

実施内容のご報告の前に、今年度の注目点が3つございます。

◆1つ目

定員を倍増の50名としましたが、それを上回る57名のお申し込みがございました。本当に感謝申し上げます。と同時に、途中からお断りしなくてはならない事態になり、折角希望された倫友の皆様には大変申し訳なく思います。次回への課題としたと思います。



◆2つ目

女性会員の皆様から15名の参加をいただきました。前回の2名から大幅アップ！そして女性の皆様からの関心が急激に高くなる嬉しさとともに予想外の驚きでもあります。近い将来、逆転現象が起こらないかしら!?と希望を抱いた妄想を楽しんでおります。



◆3つ目

郡山中央倫理法人会の皆様から参加申し込みをいただきました。東北そして全国の倫友へも広めていきたい！という長期ビジョンとして取り組む決意でしたが、小さなご縁から県外の倫友が関心を示していただいたことに感激しました。

嬉しさとともに関心の高さから、気が引き締まるばかりの想いでしたが、鶴岡市倫理法人会の仲間を中心に青年委員会のバックアップがあったからこそ実施できたことを痛感しております。改めて感謝申し上げます。

さて、本題のご報告ですが「言わず語らず」

の山伏ルールがございませぬ。その為ほんの少しだけ秘密をお伝えしたいと思えます。ご了承下さい。

当日は朝から非常に厳しい豪雨に見舞われ、いくつもの修行は断念せざるを得ませんでした。しかしながら、足元が危険な状態になっていた石段下りや自分を見つめ直す五重塔での床固め、悪天候の中でもやり遂げた月山登山など、倫理活動にふさわしい修行を実施することができました。怪我をすることも無く無事完了することも出来ました。本当にお疲れ様でした。



東北・全国へ向けて「冬の富士研、夏の山伏」を掲げ、これからも続けたいと思います。
「受けたもうー！」



倫理経営企業の素顔

第11回

山形市倫理法人会 ビューティースロン辰巳

山形市倫理法人会会員のビューティースロン辰巳有限会社様を訪問いたしました。MSには行けないけれど、毎日活力朝礼を行っている企業をご紹介します。女性の内面的な美しさが自然と外に表れてくるスタッフたちに着かれて、たくさんのお客様が集まるお店です。なるほど！これは繁盛するわけだ。

●葉17カ条を暗記

8時45分からの朝礼は「職場の教養」輪読からスタート。その後、万人幸福の葉17カ条を暗唱いたしました。次に今日の目標を一言ずつ順番に発表いたしました。おはよう



ございます。全員が、おはようございます。を復唱。続く目標発表の後、



に、よろしくお願ひいたしました。発表とあいさつ実習を兼ねるスタイルでした。

最後に連絡事

項を確認し朝礼は終了となりました。全体的にキビキビとスピーディに進行されており、日々の目標を発表することで全員が真剣に仕事と向き合う姿勢を身に着けておられるようでした。以下、荒 恒子社長と、社長の大切なパートナーである山川博江店長のお話を聞きました。

●私も変わるかしら？

10年ほど前に、素敵なお客様との出会いがありました。活動的でキラキラ輝いている女性のお客様でした。その方から倫理法人会を紹介されました。「倫理を学べば私も変わるかしら？」と思いました。それで入ったのです。

入って朝の朝礼のやり方が解りました。こうすれば良いのだと。私の倫理実践は「職場の教養」と「万人幸福の葉」を大きな声を出

して読むこと。そして日々学ぶことを通して1日のスタートにあたりスタッフと心をひとつにすることでした。

●朝礼について

私たちの職業は接客業ですので、お客様に不快感を与えないように、いつも明るく、元気で、笑顔のある職場でありたいと思っています。そのためにかかせないのが朝礼です。

入会してすぐに「職場の教養」が届いて、これは全員が読めるということで活力朝礼を始めました。交代で読むことで朝からスタッフ全員が大きな声を出すようになりました。また同じ方向を向くようになりました。

朝礼で「万人幸福の葉」を活用させていただいております。葉の17カ条を全員で暗唱していただきますが、決してそれだけではなく、たまには自身の勉強もいた



します。栞には難しい言葉がたくさんあって
噛み砕かないと若いスタッフはなかなか理解
できません。朝礼には時間的な制約がありま
すし大きな声を出すことも目的の一つ。です
から、まずは全員が17カ条の暗記をしていま
す。

「万人幸福の栞」や「職場の教養」を声を
出して読むことによって感じる心。それは人
に感謝する心、お客様を大切にしている心、それ
に仕事を通しての人との関わり方など。朝礼
でそういう心を学ばせていただいているので
はないでしょうか。

●スタッフのみなさんへ

スタッフみなさんに持ち続けていただきた
いのは、1日1日を大切にしている心です。もし
会社に来る前に家庭でちよつと嫌なことが



あったとしても、
それらを一切忘れ
て、美容室という
ステージに立って
いるという心構え
になる。お客様が
いらっしやうした時
に自然と笑顔でお
迎えられるように
なる。朝礼をする
ことよつて、そ
ういう切り替えが

できるようにになりました。

お客様がお見えになった時にスタッフから
「いらっしやませー」という声が自然と明る
く元気に出るので。

朝礼をやることで全員
がそういうモチベー
ションでスタートでき
るので。



私は朝礼がとても楽
しいです。スタッフそ
れぞれが朝に考えてい
ることが判り、ちよつ
とした気づきももらえ
るので。この子は今
日の心がけについてこ
ういう風に考えている
のだとか、また捉えて
いるのだとか、この子
は今日こうしたいと
思っているのだから、
それをちよつとフォ

ローしたいなどか思うことがあります。

仕事は厳しいのですが、スタッフのみなさ
んには元気に明るく心穏やかな心で仕事をし
て欲しい。お客様との触れ合いを通して明る
く楽しい時間を過ごして欲しい。1日の8、
10時間ほど一緒にいるわけだから。その大切
な時間を嫌な気分で過ごすのではなく。女性
の職場ではどうしても陰口とか嫌な心が生ま

れてくるのですが、そういうのは私が最も嫌
な心なのです。

●明朗・愛和・喜働の職場づくり

明朗・愛和・喜働。そして心おだやかに。
倫理はお客様が来店された時に癒される空間
づくりのための勉強会だと思つたのです。お客
様がせっかく来てくださるわけだから、楽し
い空間で、癒される空間で綺麗になつていた
だきたいと思つています。

倫理を道しるべとして「美容一筋の道を迷
うことなく歩む」。そういう心を持ち続ける
ために倫理を学んでいます。

スタッフが朝礼に参加してもらうだけであ
りがたい。スタッフの意識活性で会社全体が
活性するからありがたい。スタッフと心の在
り方などを話せる時間はすごく大きいし役に
立っているからありがたい。お客様あつての
商売です。お客様にかわいがつていただけ
るような心をつくる部分で役に立っているか
らありがたい。私はそう思っています。

●美容室から元気を！

「美容室から元気を！」をモットーに、仕
事が始まる前に近所のゴミ拾い、冬は近所の
おじいちゃん、おばあちゃんの家の雪かきを
スタッフが進んでやってくれています。おば
あちゃんからお礼にお茶をごちそうになつて
きたとか、そういうご近所付き合いをさせてい



ただいております。夏祭りにも「活きの良さを出してくれ！」とお声がかかって盛り上げ役を頼まれます。花笠にも参加しています。倫理を通じたご紹介で、これは金銭的なボランティアなのですが、カンボジアで井戸を掘ってもらいました。「辰巳の井戸」が出来て井戸水が出たよと喜んでくれている子供達の写真をいただきました。

美容業界の行事として毎年コンクールに参加しています。うちのスタッフはみんな優秀で必ず賞をいただけてきます。全国大会でも1位2位とか、毎年賞をいただけるスタッフが勢ぞろいです。

美容室は時間が長い、給料が安い、休みが少ない、業界と言われまです。それをなんとか改善しようとしています。その3つの弱点を克服するため、お客様の時間を大切にしながら、短時間で終えるように意識を集中して技術を提供しています。それが可能になるようにそれぞれが

練習をきちんとする。予約展開で無駄な時間を無くす。このような取り組みで営業時間を短くして早く帰れるように工夫しています。女性の大切な時間は夜8時からだと思うので7時に片づけまで全部終えて帰るようにしています。結婚して子供が生まれてもまた勤めてくれる方が4人もいます。人の力って大きいなと思います。協力してくれるスタッフは私の宝物です。

●MSには出れないけれど

地元にも、身近なところに倫理法人会があるからありがたいです。お客様で学ぶことができております。この感謝の気持ちを皆様に、ひとりでも多くの人に伝わるように力をこれからも尽くしたいと思えます。

MSにはなかなか行けない状況です。女性の立場として朝の6時半からの時間は、家族の朝食の準備や仕事をするための準備等々がありまして、なかなかその時間の外出が困難というのが大きな理由です。

スタッフも含めてどなたでも結構ですので参加してくださいという案内はいただくのですが、スタッフには個々の指名のお客様がいらっしゃいますので、お客様の時間を大切にすること、ということもあってMSに行けません。でも夜のパーティなどその他の行事には楽しく参加しています。



●山川店長からのメッセージ

社長の言葉に「自分が光りたいんだったらまず周りを光らせなさい」というのがあります。それはそうだよねとスタッフ同士で話し合っています。

社長は働きやすい職場にしようとして日々努力されています。それはお休みの点でも、働く時間でも、ひとりひとりが頑張れるようにと思ってくださいのことです。同じメンバーで何時間もいるこの美容室というステージが一番大切です。これがお客様に伝わっているのかもしれないね。

実践しましょう



天童市倫理法人会
事務長 柴田 和善

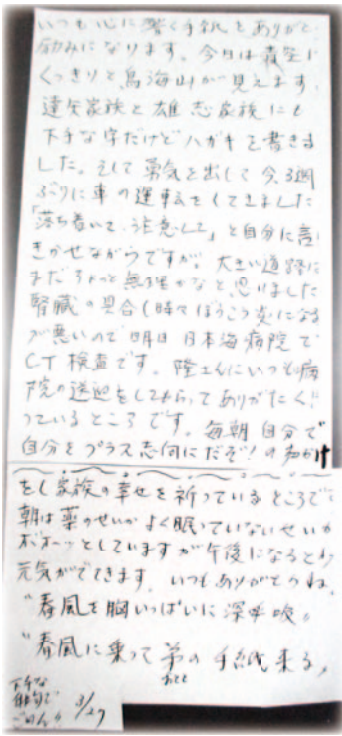
姉が、「心の病」を発症して、無気力状態になったと知らせを受けたのが今年の1月。御年65歳、昨年まで、元気に車の運転もし、旨いと評判の手料理を近所に振舞っていました。それが、食事の準備もできなくなり、歩くこともままならず、手紙さえ書けない状態になってしまったのです。

さあ、どうしたらいいんだろうと悩んでいた時に、脳裏に浮かんだのがモーニングセミナーで講師の先生が「旅先から老いた母に手紙を送っています」と言っていたお話。「よし、これなら出来る!」という事で毎週日曜日に手紙を書くことに決め、実践中です。第1便は、「実は自分も30歳の時に『心の病』を発症した事、そしてそれは『治る』ことを知らせました。片道通行が続いておりましたが、3ヶ月後に吉報が姉から届きました。(写真)

嬉しかった。そして、4月16日、天童市の倫理経営講演会で「出せば入る」の講演を聴く機会を得ました。なるほどなあ、正に「出せば入る」。「手紙が、いい知らせを連れて、もどつて来てくれた」。思いを形にして実行すると、繋がるんだ!!と実感。涙が止まりませんでした。

結びに「モーニングセミナーの講師の話を本気で聞いて」良かったと思えました。そして、「この人の言う通りに実践してみよう」と行動して良かったと思います。その実践を積み重ねたことで、『ありがたいこと』が起りました。夢のある者は、希望がある。

希望がある者は、目標がある。
目標がある者は、計画がある。
計画がある者は、行動がある。
行動がある者は、実績がある。
実績がある者は、反省がある。
反省がある者は、進歩がある。
進歩がある者は、夢がある。



米沢市倫理法人会
副会長 中村 恵一

4月17日(水)東京第一ホテル米沢を会場に倫理経営講演会を開催いたしました。参加人数は119名でした。



事業体験報告は長野県須坂市からおいでいただいた自動車のディーラーを営む酒井照代会員。シヨールームに清水を引き水の流れる音を聞きながらの朝礼をされているそうです。酒井様が若々しいのはマイナスイオンを浴びながら笑顔の活力朝礼をされているからだと確信しました。

講演会は丸松靖 法人局名誉研究員。テーマは



時間が過ぎるのを忘れて

平成25年度4月17日(水)の午後6時から山形国際ホテルにて開催されました「倫理経営講演会 ― 運命は自らまねく―」には、250名を超える方にご出席いただき、盛況のうちに終える事ができました。



山形市中央倫理法人会
広報委員長 丸子 芳史

「運命自招」倫理は大自然の法則の大きな流れに沿った絶対的なものであり、国籍は無関係であり、時代を問わないもの。倫理からはずれていたら、自分を変えればよい。運命は自らを変えることで切り拓くもの。ここちよいリズムで淡々と話される姿勢に感動をおぼえました。
感想を述べます。
私は今年、還暦を迎えましたが、倫理は年齢も問いません。やるのは「今でしょ!」
新たな60代を考え、切り拓こうと思いません。



当日は、山形県倫理法人会の役員の皆様はもちろん、山形市などの近隣単会各単会を初めとした各単会の役員の皆様にも多数ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。
講演では、事業体験報告として『職場の改革』を青森県倫理法人会の成田守男会長からお話いただきました。成田会長の生い立ちから、倫理法人会に入会してからの様々なエピソードなど、興味深い内容でした。
また、社団法人倫理研究所の中西浩参与からは『運命は自らまねく』と題し、ご講話いただきました。万人幸福の葉でもおなじみですが、より分かりやすく、非常に気づきの多いお話でした。モーニングセミナーで輪読をしているとは言え、普段はなかなか気づかない事が多くあります。そうした事を、中西参与とは、分かりやすい言葉に置き換えて、自身自身の体験をもとにお話されましたので、非常に多くの学びをいただけたように感じます。また、会場の多くの出席者の方々も、時



長井市倫理法人会
副会長 目黒 憲夫

間が過ぎるのも忘れて聴き入っているように見えました。ご参加いただきました方には、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

去る5月21日(火)午後6時より、平成25年度長井市倫理経営講演会が、長井市内のタスパークホテル2階に於いて盛大に開催されました。

動員数105社、186名の参加でした。
最初に埼玉県倫理法人会相談役の黒澤和夫氏をお招き致しての事業体験報告「やれば出来る、感謝の心」と題しまして(株)黒澤工務店社長さんのお話でした。

黒澤社長さんは、29年前に朝礼がやりたくて入会し、14年前に浦和市の会長を拝命。

2011年に埼玉県の会長を拝命し、5500社を達成。苦難があったおかげ





で、それをバネに成長することが出来たと。常に地域密着型の企業を目指し「倫理の教えに感謝です」と話されておられました。

後半は、今年度講演テーマ『運命は自ら招く』と題しまして、法人局普及事業部主

席、九州・沖縄方面長伏木久登氏の講演。「前を強く向く姿勢により運命の扉は開かれる、厳しい経営環境を打破し邁進する企業に共通しているものは、トップリーダーの限りなく前向きな姿勢である」と話され、その豊富な事例から事業経営の更なる飛躍のヒントとして、プラスの運命を引き寄せる生き方を学びました。



寒河江市倫理法人会
広報副委員長 中西 和則

寒河江市倫理法人会平成25年度倫理経営講演会が5月23日（木）グランデール寒河江にて235名の来場者を迎え開催されました。海野晋会長の緊張感に包まれた挨拶に始まり、第一部は事業体験報告として、石川県幹事長である有限会社タムラデザイン代表取



締役田村隆氏が「気付きは体感の中に」と題して、氏が生まれる前から借金返済に負われていたことなど、波瀾万丈の体験を熱く講演されました。30歳で倫理法人会に入会した当初、当時の会長から突然「お前の会社は潰れる」と言われ、その時『何で?』と思いましたが、確かに思い当たるフシがありました。社員がみんな辞めてしまいその訳が判らなかつたそうです。そんな時その言葉を言われたそうです。そして、「朝起き」「トイレ掃除」「墓参り」の実践を行うこと、それから自分の奥さんを『ちゃん』や『ちゃん』を付けて呼べないような男は社長じゃない」とものすごく怒られたそうです。氏の講演は、力強く心の中にピンピン入ってくるものでしたが、これは練習の賜であると聞いて驚きました。

第二部は、テーマ「運命は自ら招く」と題して長嶋徹法人スーパードバイザーが講演されました。丸山敏雄創始者の言葉を、万人幸福の葉や他の著書を通して解説していただきました。特に、昔の武将の褒美の寓話（最初は少ない金額を毎日倍々に1ヶ月間貰う話）27日目



あたりから急に金額が多くなる）を例にした成功曲線の話からは、一見なんの効果も無いように思える実践もある時から急に変化するという、毎日毎日の地道な積み重ねの大切さを再確認致しました。

後日談ですが、聴講して下さった友人から『奥さんを、ちゃん付けで呼んでる?』とメールを貰い、ああこの人の心にも残っていたんだと嬉しくなりました。

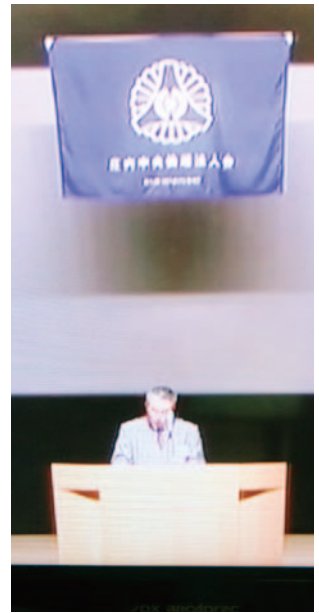
ちなみに、妻を『久美ちゃん』と呼んだところ、娘に『気持ち悪い!!』と一蹴され、いまだ呼べずにいます。



庄内中央倫理法人会
広報委員長 秋葉 正一

心に残る1周年記念日に開催

庄内中央倫理法人会の平成25年度倫理経営講演会が5月24日に庄内町響ホールにて開催



され84社161名が出席し聴講しました。

庄内中央倫理法人会は平成24年5月24日発足してまさしく当日が1周年記念日に初めての倫理経営講演会という事で思い入れの深い講演会となりました。また準備段階から他単会倫理法人会各担当者様には色々のご協力頂き又御出席頂き有難うございました。

みんなが緊張の中、我等が富樫幸吉会長の堂々とした挨拶で始まり、最初に事業体験報告として北海道札幌豊平倫理法人会会長・倫理経営インストラクターの株式会社 美容室 桜井・三澤龍子会長より「美しく輝いて」と題して倫理経営の実践について講演頂きました。

夫の病、経営者交代による大量の退職者、創業者家以外のトップとしての使命などさまざまな苦難をどのように乗り越え成長してきたか、まさしく倫理経営の実践でした「心の経営」をしなければならぬ、「ぶれて」はならない、目標を持って旗を掲げ従業員一同倫理を実践した結果が今に至ったのでした。これからも事業経営に「倫理活動を根っこ

に、花を付けていきたい」と締めくくられました。

引き続き「出せば入る」と題し株式会社 コヤマ社長 小山久雄 法人スーパーバイザーにより講演が行なわれました。倫理即生活、実行により直ちに正しさが証明される生活の法則ですよ。人生すべて決まりごと、今日はその1つの「出せば入る」という事です、と始まりダジャレを交え解りやすくお話をされました。「人の心の上に幸福がある。」素直に信じて、やるかやらないかです。「自分を越える時、声を出す。」やるのは自分、評価は他人。笑って話しかけると、笑って返ってくる。「すぐする、続ける、感謝(言葉にして)する。」以上が私が覚えていた言葉です。さらに朝礼委員長が指名され壇上に。思い出に残る指導を頂き感謝していました。終了後先生を交えた懇親会で倫理は仲間ですよ、とお教え頂きました。本当に心に残る1周年記念日でした。



新庄最上倫理法人会

会長 田中 栄造

『倫理経営講演会』に学ぶ

平成25年度の新庄倫理法人会での倫理経営講演会は、5月27日にザ・リヴィントンに於

いて講師に法人スーパーバイザーの山田長司氏、テーマ『出せば入る』、事業体験報告として千葉県香取市倫理法人会相談役の飯田守氏、テーマ『となり繁盛』と題して開催されました。

年1回の倫理講演会は、会員役員が中心となり非会員への純粹倫理の学びの場をアピールし、楽しく学ぶ仲間作りを目的として開催されます。今回も、会場いっぱいの方々にご聴講頂き今後のこの地域での活動に勇気を貰った講演会でありました。

テーマ『となり繁盛』での講話では、昭和40年代からの仕事の浮き沈みの経過をたどりながら、親からはうちには金がない、お前が死んで誰が喜ぶのかと言われ、滝口長太郎氏の話聞き、倫理に目覚めていく氏の生きざまが語られ、その中で、飯田氏は、商売のコツは人の為に働く事、その地域に生きる人たちの良い関係を保ち、人の繁盛を願う事こそが自分の望みを叶える道である事を「欠けたコロッケ」の話を通じて教えて頂きました。



となり繁盛は、私たちに希薄になりがちな日本人の心を取り戻し、地域と共に生きる

事の大切さを切々と訴えていたと思います。

次に山田長司氏の『出せば入る』では、純粹倫理言論に基づく、発願還元の原理を中心に、飯田氏の話を引き合いにして、特に人の為に働きの喜びを我が喜びとする事の大切さを教えて頂きました。

私たちの生活の中には、季節の移ろい、昼夜の関係、人との複雑な関係、仕事の損得など、相反する事柄の列挙にいとまがありません。この事はすべて物を含めて相手がある事であり、振り子の法則に従って行動(良い事・正しい事の習慣化)する事が万人幸福の道である事を教えて頂いたように思います。

「家庭円満、健康長寿、多少の経済のゆとり、一生続ける価値ある仕事を持つ、感謝の心で生きる」事が人生で大切であると氏は語ります。あらためて純粹倫理を学ぶ大切さを実感した講演でありました。



南陽市倫理法人会

会長 和田 廣

「人、会社、家庭があるのは倫理のおかげです」というテーマで事業体験報告を頂いた後、「出せば入る」のテーマでご講演を頂きました。最初に形や正しい考え方が重要なことを、ゴルフを例に正しい知識があれば正しい打ち方が出来る。練習を繰り返せばこそ

出来るようになる。しかし、自己流で好き勝手にやっていたら一定以上の成長はない。成功者は気付いたらすぐする人、やった方が良いことをわかっている人も、面倒臭さがありぐずぐずしてやらない。まず最初に出す(正しくやる)ことを入れる(成果が返ってくる)ことを基本のお話としてお話しになられたと思います。

お金が必要な時に恵まれる人はちゃんと出す人、出すべき時に喜んで出す人。寄付であったりした時に、その時喜んで出すかいいや出すか、気持ち良く出す人、喜んで出す人は喜んで入ってくる。お金の出し方が悪い人は入り方が悪い。生活や経営上の決まりごとと同じである。



出せば入る、取れば取られる、与えれば与えられる(時間がかかるものもあるが)。自分のやったことは、良いも悪いもごまかしがきかないし、良いも悪いも正しくやったら必ず返ってくるというところが当たり前の話であるが、当たり前のことを



忘れ去っていたり、自覚をしていないことが多いのではないのでしょうか? 目先のギブアンドテイク、これをしたらいくら、これをやったらどうなるのといったように、目先のことだけを考えてしまっただけ、人間が

小さくなっています。今すぐ返ってこなくても、あとで必ず返ってくるということを伝えて頂きました。私達年代以上の親は、人に迷惑をかけるなよ、嫌われるなよ、それは、絶対自分に返ってくるからな、喜ばれることをするんだよ、お役に立つことをするんだよと言いました。大事なことはまさしくこの考え方です。人の為に尽くさないで、相手の立場に立った考え方をしないで、自分だけ良くするということが肝に銘じていきたいものです。



鶴岡市倫理法人会

専任幹事 佐藤 和人

数々のエピソードに学ぶ

平成25年度倫理経営講演会を6月12日(水) グランドエルサンにて開催いたしました。「運命は自らまねく」をテーマとし、倫理研究所理事の中西康成氏、さいたま市南区倫理法人会会長の國武建明氏を講師にお迎えし、163名の方に参加頂きました。

國武会長は「事業体験報告」に相応しく、ご自身が過去に体験された数々の出来事を時々笑いを交えてお話くださいました。初参加のMS、違和感満載の雰囲気の後悔していたら最後に自己紹介を振られ、心と裏腹に「素晴らしい会ですね。来週から通います！」と口が動いて今に至ること。公園清掃を自主的に始めたものの心無く捨てられるゴミのいたちごっこ、それでも習慣として続けていたら1年半を境にピタツとゴミが無くなったこと。仕事中、飽きるほど見ているはずのク



リームチーズの「クリーム色」が何故か気になり、その気づきが自社製品を根本から変えるきっかけになったこと。余命数ヶ月と宣告された御母堂に、そしらぬふりで毎日葉書を書いて送り続けたとこ

ろ、その後9年もの人生を全うされたこと等々。柔らかな語り口ながら、実際に実行・体験された方のみが発する説得力があり、最初から最後まで貴重なエピソードの連続でした。



中西理事からは「運命は自らまねく」という「真理」を、明快かつ力強くお話頂きました。経済効果に湧くスカイツリーのふもとにあつて、大変な不利益を蒙ることになったせんべい屋さん。今まで天日干ししていた時刻に巨大な影が辺りを覆うようになってしまった。「ならば」と90歳近い店主はその影に合わせてこれまでの就業時間をガラツと変えた。そして今でも以前と同様に日々革命的せんべい作りを続けているとのこと。運命とは諦念とともに受け入れるものではなく自ら作るものであるということ、その他豊富な見聞と体験を交えて講演して頂きました。

大変有意義な2時間でした。県内各所よりご参加頂いた皆様、遠方よりお越しいただいた國武会長、中西理事に心より感謝申し上げます。



酒田市倫理法人会
副会長 山本 隆

6月25日(火)に平成25年度酒田市倫理法人会倫理経営講演会が183名の出席をいただき開催されました。

講師として、倫理研究所参与の田中範孝氏、事業体験報告者として茨城県常総倫理法人会染谷悦子氏を迎えて講話していただきました。

初めに事業体験報告のテーマ「夫婦愛とその企業繁栄の秘訣」中で染谷氏は社長を補佐しながら、一級建築士としての資格を生かし、営業の最前線で活躍していた時の体験を話していただきました。

その中で自分が余りにも外に出過ぎた為に、会社の管理が疎かになり過ぎていた事に気付かず、社員の不正な残業の実態に気付く事もなく、労基署に訴えられ、多額の超過残業代を請求されて、初めて気付かされたこと述べていました。

そのような事から、会社の経営もかなり苦しくなり、立て直すために外部から経験豊富な人材として、元ゼネコンにいた人に入社してもらい、現場管理の指導をお願いしました。そうしましたら、会社の中の風通しが良くなって業績が上向いたという事でした。



その恩人たる方の墓が酒田市内の寺にあると聞いて、今回の講演会に合わせて、会社の幹部社員を同行し、墓参りもして来たとの話に出席者の皆さんも何かの縁を感じずにいます。

倫理を学ぶものとして、自分の我がままを出した経営を反省し、夫婦愛和こそ企業繁栄に結び付くものだと思へ、事業体験報告を終えました。

次に、講演に立った田中範孝氏は「出せば入る」というテーマで話され、倫理経営の基本としての心構えを、自分の体験の中から語ってくれました。

青年期に長く病気に苦しんでいて、医者にも完治は難しいのではないかと言われていたのが、あるきっかけから奇跡的に回復した時、それが親、兄弟への感謝、他人に感謝する心がそうさせてくれたと思った事によって自分の方に徳が返ってきた事。商売でも同じで、自分の方に入る事だけを考えないで、まずは、他方へ出す事を先に考えると自分に徳になる事が必ず返ってくるのだと思われま

した。

それを、常に継続出来る心構えが倫理法人会の学びの中で培われて行く事を出席者の皆さんに感じていただけたと思っております。

講演会閉会后、うちの懇親会が48名の出席者で開催され、酒田市商工観光部長の大河様に祝辞をいただき、菅原副会長の乾杯の音頭の後、なごやかに懇談、交流の場として親睦を深め、安藤相談役の中締めで閉会となりました。

単会トピックス



寒河江市倫理法人会
広報委員長 鈴木 俊雄

寒河江市倫理法人会設立10周年

記念式典・祝賀会

平成15年7月31日、県内第4番目の単会として、寒河江市倫理法人会が誕生いたしました。

現在、第4代目、海野会長のもと、お蔭様で10周年という記念すべき節目をむかえることができました。ひとえに各単会皆様方のご支援と当会会員皆様方のご努力のたまものと感謝申し上げます。10周年の記念行事といたしましては、7月18日に記念式典・祝賀会、

8月3日に記念コンサート、そして10周年記念誌の発刊となっております。

去る、7月18日の記念式典・祝賀会当日は、数十年ぶりという集中豪雨にみまわれましたが多数の倫友の皆様方よりご参加いただき盛大に開催されました。

式典では10年の歩みをDVDにまとめ上映、つい先日の出来事のように脳裏に甦ってまいりました、歩みの中で、特に功績があった初代中村会長、2代目桜井会長、3代目岡崎会長、奈良崎相談役の4名に対し感謝状・記念品が海野会長より贈呈されました。

惜しくも3名の方は既に他界されており、桜井相談役が3人の志を背負い、海野会長と

ともに普及拡大並びに倫友の輪を広げるべく役員をリードし活動しております。

鈴木県会長からは、寒河江市倫理法人会誕生の際の人と人との出逢いから繰り広げられたドラマの数々。



また、早起き、挨拶、返事、清掃、自然への畏敬など即行実践項目を交えた祝辞を賜りました。式典の最後は山形県に大変縁のある川又久萬名誉専任研究員より「蒔かぬ種は生えぬ」と題して講演をしていただきました。「子孫のために美田を残さず」。物やお金を残すのではなく積善積徳『徳』という心を残す。」

新会長の下、新しい体質・体制ではつきりとした目標と希望を掲げ、15年：20年と歴史を積み重ねること。寒河江市倫理法人会に対して激励のメッセージをいただきました。



山形市倫理法人会
広報委員長 佐藤 啓

「ワインと語る夕べ」



山形市倫理法人会のイブニングセミナーが6月10日(月)にホテルメトロポリタン山形にて開催されました。

今回は小松会長のたつての希望で、会員様あってこそその倫理法人会、そんな感謝の会をやりたいと



の思いから(株)シベール創業者の熊谷眞一・トシ子夫妻をお招きして「ワインと語る夕べ」が開催されました。

熊谷ご夫妻からは「おもしろい夫婦」く割れ鍋にドジ蓋くというタイトルで、お二人の出会いから創業当時の苦労、現在に至るまでのお話をワイングラス片手にご夫妻の息の合った名調子でたつぷりと語っていただきました。

当日は他単会からや会員企業からの参加者も多く、総数71名の方々に参加いただき、おいしいワインと料理と熊谷ご夫妻の愛情たっぷりのトークに酔いしれながら和やかなひとときを過ごすことが出来ました。

ご参加いただいた皆様と熊谷ご夫妻に心より感謝申し上げます。



山形市中央倫理法人会
広報委員長 丸子 芳史

映画の秘話から学ぶー山形中央女性委員会

平成25年7月13日(土)にレストラン「デラシネ」で行われた「山形市中央倫理法人会第11回女性委員会」に講師として、庄内映画村株式会社代表取締役社長の宇生雅明氏をお招きしました。「生き抜く力」と題し、映画に携わるようになった経緯や、今年10月12日から公開を予定している『おしん』の撮影裏話など、大変興味深いお話をさせていただきました。



宇生氏は、ご出身が長野県で、現在自宅を山梨県に構え、東京でも一つ会社を営まれているという大変ご多忙な方です。庄内映画村株式会社設立してから丁度7年を迎え、宇生氏が映画に携わり始めたの



は2001年12月に公開された『蝉しぐれ』で『おしん』は13作目となります。

もともと、映画に興味があったので始めたわけではなく、合縁奇縁により映画業界に係わるように

なったそうです。映画製作は全くの素人でしたが、地元の協力もあって『蝉しぐれ』は奇跡的な大成功になりました。

倫理を学んで



上山市倫理法人会
MS副委員長 熊谷 俊彦

私は、上山市倫理法人会に入会して2年目にMS副委員長という役を拝命致しました。

右も左も分からない中でしたが、役員朝礼、モーニングセミナーに継続して参加することを第一の実践目標として取り組んで参りました。

諸先輩方、アドバイザーの講話、十七カ条の輪読から、私は色々な気づきを与えて頂きました。その中でも特に私は『成功の反対は失敗ではなく行動しないこと』を日々意識しております。どんな良い話を聞いても、頭で理解しただけであれば、何も改善できません。行動が必要なのです。過去に実行できなかったことを反省するのではなく、気づいたときに即実行する。そしてそれを継続していくことを肝に銘じて取り組んでいきたいと思っています。実践あるのみです。



天童市倫理法人会
事務局長 柴田 和善

幸せが2倍になる考え方

日本では、人からプレゼントをもらったら「ありがとう」と言います。ところが、アフリカには、プレゼントを手渡す時に「ありがとう」と言う習慣を持つ部族がいるそうです。

それは、誰かにプレゼントできる、つまり恵む事ができるという事は、既に自分が恵ま

れている証拠だから、その事に喜び感謝するという事だそうです。

プレゼントをもらえる事、それは確かにありがたい事です。でも、本当のありがたいさは、誰かに何かを与えられる自分での事であり、むしろこちらの方が大切だという訳です。

大切な人へ贈るプレゼントを選んでいる時、そこには「2つの幸せ」が隠れているような気がします。1つは贈り物ができるほど恵まれている事への幸せ。そしてもう1つは、プレゼントしたくなるほど大切な人がいてくれる幸せです。

さて、皆さんが学んでいる「倫理」。これを皆さんの大切な人へのプレゼントの1つに加えていただきたいと思います。そして、この「倫理」という素晴らしい贈り物ができるほど恵まれている自分への幸せと、この「倫理」という素晴らしい贈り物をプレゼントしたくなるほど大切な人がいてくれる幸せを味わっていただきたいと思います。



編集後記



山形県倫理法人会
広報委員長 土屋 和浩

県広報委員長をお引き受けしての3年間、これまで12冊の「広報最上川」を発行させていただきました。単会広報委員会の皆さまには原稿集め、校正作業などご多用のところ大変お世話になりました。また、県の役員の皆さま、単会の皆さまにもご執筆等のご協力を快くお引き受けいただきましたこと、また、原稿集めを快くお引き受けくださった事務局の鈴木さんに厚く御礼申し上げます。

この3年間は、県の様々な行事や、全ての単会の動き、新単会設立の流れなどをつぶさに拝見することができました。なかなか得られない貴重な体験をさせていただいたと思っております。

また、私が委員長を引き継いだ時点で新たな試みとして、新聞広告、新聞記事の掲載依頼、ラジオCMの制作、ホームページの運営もお引き受けしました。有志のご協力の下、Facebookによるイベント集客の実験、県のFacebookページの運営(単会のページも増えました)と情報発信を行い、私も管理者になっている全国Facebook倫理の会のページは1200名を超える会員数にまで成長し、北は北海道から南は最南端単会の石垣島まで遊びに行ける倫友がたくさんできました。

そして忘れられないのが20周年記念誌「やまがたの倫理」の発行です。倫理運動に、単会活動に、自己革新に迷いが生じた時はここに戻れば良い、必ずヒントがある。そのような本です。是非テキストとしてご活用いただければと思います。

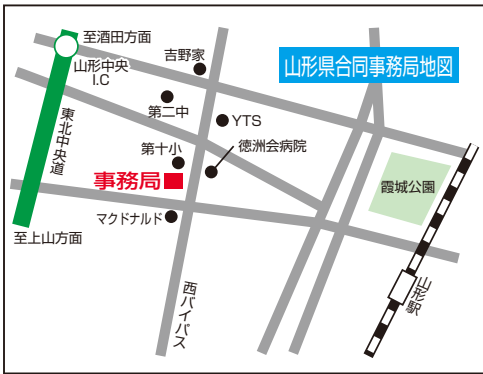
熊谷眞一県相談役を中心に作られた10周年記念誌「夢かぎりなく」があまりに素晴らしく、20周年記念誌部会全員が到底かなわないと感じながらも、精一杯努力をして山形県倫理法人会の過去・現在そして喜びのある未来を余すところ無く伝えたいつもりです。

しかし、この本の背景には、その何千何万倍もの物語があり、それが現在の倫理法人会を成していると思えます。20年も前のことをつい昨日のこのように話される会員がどれだけ多い事か。反始慎終の教えのようにそのひとつひとつを大切に、しまりの無い活動になら

ぬよう、七八分でガラリと行かぬよう心がけたいと思います。本間利雄名誉会長が初めの1社。そこから22年間積み上げた数が1600以上。これは大変な数字だと思います。全国から寄せられる「やまがたに学べ」の声に「いいえ、まだまだです」と謙遜するようではいけない。むしろ目標にされ続けることが山形県倫理法人会の使命と心得て活動しようとする鈴木会長は述べられておられました。その通りだと思えます。

一時の苦しみ、しばしの痛みは光明の舞台に立つ前のしばしの暗がり。これまでのように、これからも健やかに順調に成長していく会よりは、大雨が降り、雷が鳴り、真つ暗になったような苦痛を味わい、そこから再生していく強い会であった方が良いでしょう。そのような感じた8月2日の役員会。忘れられない日になりました。

私の広報のお仕事はこれで終わりです。この貴重な3年間の経験を活かすべく新たなお役目をいただくことになりました。微力ながら会の発展に努力してまいります。次年度はこの方しかいない!というお二人から正副広報委員長をお引き受けいただきました。広報最上川はフレッシュな体制で誌面ががらりと変わります。その他の広報活動も順次引き継いでまいります。自分たちの感性で、自由奔放に倫理法人会の現在をお伝えくださればと思っております。どんな誌面になるのか今からとても楽しみです。



URL
<http://www.yamagata-rinri.net/m/>

